

来たるべきオープンサイエンス社会に向けた ソフトウェア公開促進のための方策

慶應義塾大学 理工学研究科 博士課程
博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型1期生

安藤 大佑

概要

- ▶ 公的研究資金を用いた研究成果(論文・研究データ)について、産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能とする**オープンサイエンス**が世界的に推進
- ▶ オープンサイエンスの範囲をソフトウェアまで広げることで、これまで利用されずにいたソフトウェア資源の再利用を可能とし、**研究開発の効率化**

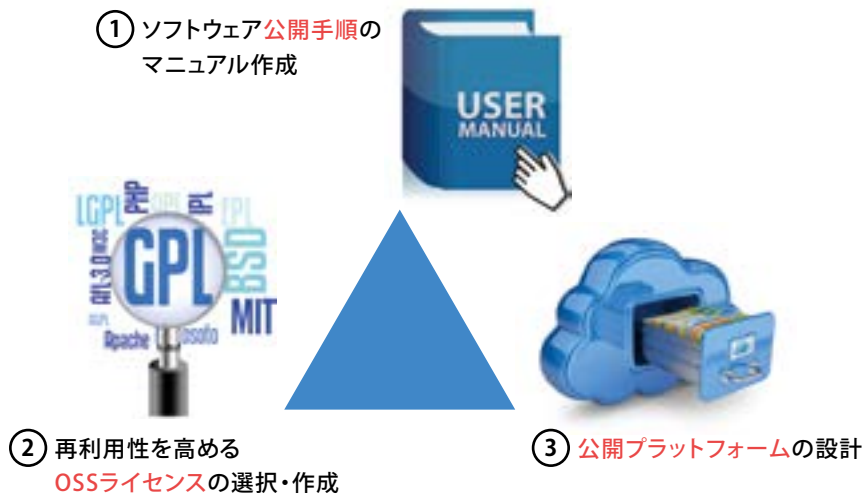
実現すべきビジョン

<限られた資源の「共有」と「再利用」により、より効率的な研究開発を推進>

- ▶ 生産年齢人口の減少
 - ・研究開発力の弱体化が懸念
 - ・非連続なイノベーションを生み出す研究開発を強化し、技術イノベーションの基盤的な力の**抜本的強化**が必要
- ▶ 必要な**強化**
 - ・1) 人材力, 2) 知の**基盤**, 3) 資金改革
 - ・知の基盤強化の一環として本提言が存在

提言の具体的内容

- ▶ 公的研究資金での研究過程で作成された**ソフトウェア**も論文や研究データと同様に公開を推進する



具体的な提言項目

- 提言1 ソフトウェア公開手順のマニュアル化
- 提言2 再利用性を高めるライセンス選択・作成
- 提言3 公開プラットフォームの作成

提言先 内閣府、文部科学省他